

将来に向けて戦略的な交流を展開することで、国際的な存在感を高め、県民の利益向上を目指す静岡県の地域外交。今回は、この夏に派遣されたモンゴル交流団、ペルー・ブラジル訪問団における人的交流とその成果を紹介する。

肌感覚の交流で本質を知る

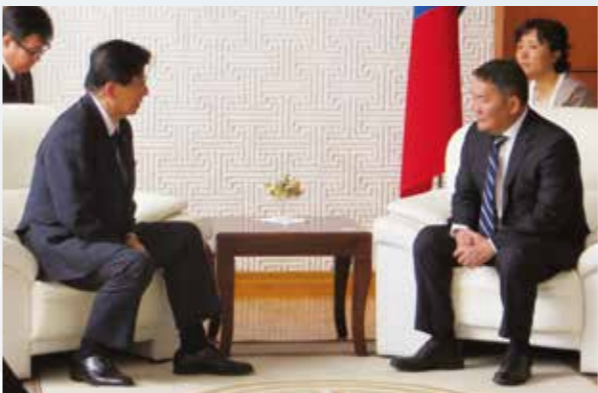
静岡県とモンゴル・トルノゴビ県は、平成23年の友好協定締結以来、教育、医療、生活基盤整備、経済等の分野で積極的に交流を続けている。また、同国の工業・農牧

業省（現食糧・農牧・軽工業省、セレンゲ県との覚書調印も加わり、両県国の結び付きは、年を追うごとに強固になっている。こうした流れの中、今年も8月上旬に知事団、経済団、農業団、高校生交流団等からなる約120人がモンゴルを訪

問した。



現地の高校生と手をつなぎ、一緒に「we are the world」を熱唱するモンゴル高校生交流団。



バトトルガ大統領と懇談する知事。大統領からは、更なる交流拡大への期待感が示された。

川勝知事は、首都ウランバートルで同国トップ

のバトトルガ大統領とエルデネバト総理大臣と懇談。これまでの同国との交流促進に向けた本県の着実かつスピード感溢れる取り組みが高く評価され、更なる経済交流の拡大に向けた連携への期待感が示された。バトトルガ大統領とは今回で4度

目の面談となり、トップ同士の強い信頼関係は、今後本県とモンゴルが多様なジャンルで連携していく上で重要な礎になるだろう。

また、知事団は、農業分野での協力にかかる覚書に基づきソバ栽培の技術協力を進めているセレンゲ県も訪問し、オリギル県知事と面談。同県知事から、現状40haで試験栽培しているソバ園地を来年には1000haに拡大

したいとの意欲が示されるなど、今後も農業分野などでの連携を強化していくことを確認した。

一方、高校生交流団はトルノゴビ県を訪問。遊牧民生活を体験し、現地の高校生と互いの文化を紹介し合うなど交流を深めた。リーダーを務めた黒島一真さん（県立富士高3年）は、今回の派遣を次のように振り返る。「モンゴルは発展途上国だと思っていました。トルノゴビ

肌感覚の交流で花開く 静岡県の地域外交

県の高校生と触れ合うと、相違点よりも共通点の方が多いと気付きました。国や言葉は違っても、恋愛やポップカルチャーなどに對する好奇心は同じです。一方、彼らのダンスは私たちと違い、舞踊であり意志表示でした。そこにはモンゴル民族としてのプライドやアイデンティティが滲み、文化レベルの高さを感じました。文化と文明は違うものですね。国をイメージだけで判断するとミスリードに繋がります。目の前の相手とじっくり向き合い、お互いの違いを感じ取ることが何よりも大切だと感じました。肌感覚の人的交流は、将来にわたり両国の架け橋となる人材の育成にも繋がっていく。

大学間交流が正式に決定

8月下旬には、川勝知事と杉山県議会議長を代表とする本県訪問団が、ペルーとブラジルを歴訪した。

ペルーでは、ペルー静岡県人会による移住110周年を祝う



ITAでは、大学間交流や教育の重要性まで、次代を担う人材の育成について話が交わされた。

交流会に参加し、同会会長や日系人有力者と意見交換を行った。本県の知事が同地を公式に訪れたのは39年ぶり。今後の両県国による経済、観光などの分野における交流拡大に向け、期待が高まる訪問となった。

ブラジルでは、創立60周年を迎えるブラジル静岡県人会の記念行事に出席するとともに、現地日系人が心の拠り所としているイビラプエラ公園の「ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑」に献花。心の触れ合いによる親密な交流は、現地でも高く評価された。その後、本県訪問団と県内企業や大

学関係者による経済学術交流団は、航空機メーカー「エンブラエル社」を視察。同社とも関わりが深い「ITA（ブラジル航空技術大学）」では、県内大学の学生をITAが受け入れることが正式に決まり、一昨年、知事がブラジルを初訪問した際に持ち上がった大学間交流の構想が実現する運びとなった。

日本とブラジルは地理的に離れているが、本県は在日ブラジル人が数多く住む地であり、なじみが深い。今年5月には、外務省が進めるオールジャパンの戦略的発信拠点「ジャパンハウス」が全世界に先駆けてサンパウロにオープンし、同国民の日本に対する関心も高まっている。そうした中で、本県が経済や教育面で交流を深めていることは、国同士の外交においても意義あるものになるだろう。

次代を担う若者の活躍

次代を担う若者の国際交流が本県へもたらすメリッ



本県と中国浙江省との友好提携35周年を記念した「静岡県・浙江省友好交流卓球大会」。双方の小中高校生120人が対戦した。

トは計り知れない。今回のブラジル静岡県人会訪問の際にも、記念行事に日系3世、4世の若者が多数出席し、今後の両県国による交流拡大に期待を寄せていた。また、本県と中国浙江省との友好提携35周年を記念し8月に開催した「静岡県・浙江省友好交流卓球大会」では、両県省の小中高校生が多数参加し、将来の交流人材育成に弾みをつけた。こうした若者による人的な相互交流は、本県が展開する地域外交において大きな意味を持つ。モンゴル高校生交流団に参加した黒島さんも今回の経験を活かし、将来は多文化共生社会の実現に貢献したい」と語っている。